

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成22年7月15日(2010.7.15)

【公表番号】特表2009-538973(P2009-538973A)

【公表日】平成21年11月12日(2009.11.12)

【年通号数】公開・登録公報2009-045

【出願番号】特願2009-513304(P2009-513304)

【国際特許分類】

C 08 L 101/12 (2006.01)

C 08 L 101/06 (2006.01)

H 01 B 1/20 (2006.01)

【F I】

C 08 L 101/12

C 08 L 101/06

H 01 B 1/20 Z

【手続補正書】

【提出日】平成22年5月27日(2010.5.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

溶存酸素含有量が飽和レベルの10%未満である水性液体媒体中に分散した導電性ポリマー組成物であって、前記導電性ポリマー組成物が、フッ素化酸ポリマーをドープした導電性ポリマー、フッ素化酸ポリマーと混合した導電性ポリマー、およびそれらの混合物からなる群から選択されることを特徴とする組成物。

【請求項2】

前記導電性ポリマーが、チオフェン類、セレノフェン類、テルロフェン類、ピロール類、アニリン類、および多環式芳香族から選択される少なくとも1つの前駆体モノマーから製造されることを特徴とする請求項1に記載の組成物。

【請求項3】

少なくとも1つの前駆体モノマーと少なくとも1つの第2のモノマーとのコポリマーを含むことを特徴とする請求項2に記載の組成物。

【請求項4】

前記第2のモノマーがアルケニル、アルキニル、アリーレン、およびヘテロアリーレンから選択されることを特徴とする請求項3に記載の組成物。

【請求項5】

前記第2のモノマーが、モノマー単位の総数を基準にして、前記ポリマーの50%以下を構成することを特徴とする請求項3に記載の組成物。

【請求項6】

前記フッ素化酸ポリマーが高フッ素化されていることを特徴とする請求項1に記載の組成物。

【請求項7】

前記フッ素化酸ポリマーが水溶性であることを特徴とする請求項1に記載の組成物。

【請求項8】

前記フッ素化酸ポリマーが水に対して分散性であることを特徴とする請求項1に記載の組成物。

組成物。

**【請求項 9】**

前記フッ素化酸ポリマーがコロイド形成性であり、高フッ素化スルホン酸ポリマーまたはその塩であることを特徴とする請求項 1 または請求項 9 に記載の組成物。

**【請求項 10】**

前記酸素含有量が 0 . 5 ppm 未満であることを特徴とする請求項 1 に記載の組成物。

**【請求項 11】**

前記導電性ポリマー組成物の 30 日間での導電率の変化が 10 % 未満であることを特徴とする請求項 1 に記載の組成物。

**【請求項 12】**

水性液体媒体中に分散した導電性ポリマー組成物の調製方法であって：

フッ素化酸ポリマーの存在下で導電性モノマーを重合させて、ドープした導電性ポリマーを形成するステップと；

前記水性媒体中に溶解した酸素を除去するステップと  
を含むことを特徴とする方法。